



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和4年12月14日
NO. 109



うららかに たくましく ～耕し 萌えたち みのらせ さきみだる～

人間の最大の弱点は誇めること 「失敗」を「経験」に～後期中間テスト～

学力＝勉強の質×勉強時間



今日12月14日(水)、後期中間テストを行いました。後期は「静」の学期、前期以上に学力向上に努める期間であることは、後期始業式で子どもたちに話していますし、本報でもお伝えしているところです。保護者の皆様も我が子の学力向上を願っていることだと思っています。

子どもたちも保護者の皆さんも、テスト結果が大いに気になるころだとは思いますが、辞書を引くと、**テストについて「学力や、知能、能力などを知るための試験」、「試」とは『ためすこと』、「験」とは『ある行為を行なったという証拠、ある行為を積み重ねたことによる効果』と書かれてありました。**すなわち、**テストとは「勉強を積み重ねたことの証として、その効果のためし、自分の現在の力を知るためのもの」**であると考えられることもできます。ここで大事になってくるのが、『勉強を積み重ねた』というところです。どんなことでもそうですが、**「原因と結果」はワンセット**です。結果はあるけど原因がないということはないでしょう。テストを受けた後、**積み重ねた勉強の内容(勉強の質、勉強時間)**という**「原因」**には目も向けず、**「結果」**だけを見て喜んだり落ち込んだりしていることがよくありますが、**「結果」は、自分の努力の証(勉強の質×勉強時間)、自分の現在の力**なのです。

でも、「結果」を見て落ち込むことは決して悪いこととは思いません。何も感じないよりはずっといい、自分なりに精一杯がんばったと思えるなら、落ち込んだり悔しがったりするのは自然のことです。大人だって仕事で失敗したり、他の人よりうまくいかなかったら落ち込み、悔しがります。**落ち込むこと悔しがれることは、自分を見捨てていないことの**

表れだと思っからです。「今回は」と自分を信じているから、結果が悪いと落ち込むのではないのでしょうか。“**落ち込みOK 落ち込みからはい上がろう**”と自分自身に言ってほしいものです。

テスト前は、いい「結果」を出すために勉強することは大切ですが、「結果」が出たら、点数そのものよりも「原因」に目を向けてほしいものです。

「結果」は変えられません。テスト前に戻って、勉強することはできません。「点数」も変えられません。変えられるのは「今の自分」だけです。「結果」を受けて、「今の自分」が何をするのかしか変えられないのです。特に、今回の「結果」が落ち込むほど悪かったら、「今の自分」の変えるべきところを変えて、次回に生かすしかないので。

そのためには、やりっぱなしではなく、「結果」をきちんと受け止め、必ず見直し、なぜ間違ったのか？まだ理解していないところはどこか？テスト勉強時間は勉強量は足りていたか？など、**自分を分析して改善点を見付けなければいけません。**自分の現在の力を知るという意味においては、そのためのテストだと思ってもいいのかもしれませんが。もしテストがなかったら気付かないままかもしれません。

「原因」を考えて、改善点を洗い出したら、必ずリベンジを誓いたいものです。落ち込むほどの「結果」だったということは、大きな伸びしろ、大逆転のチャンスがあるということ。落ち込んだことを、次への原動力に、それは、その人にしかできないことなのです。

「点数さえ上がれば全てよし」は、テストの本質に目を向けていない考え方もかもしれません。自分で勉強する契機としてテストを活用するという考え方が、学生時代も、社会に出てからも学び続ける姿勢を身に付けるためにも必要ではないかと思います。

自分の最大の敵は自分



「失敗」をそのままにしてしまえば

それは「失敗」

「失敗」を次につなげて結果を残すことができれば

それは「失敗」ではなく「経験」

「勉強をサボった日」と「勉強を頑張った日」
ストレスが溜まるのはどちらですか？

気持ちよく寝られるのはどちらですか？

~~~~~